

14. 二回抜取検査の方式

遠 藤 健 児

二回抜取検査において、手間や費用に関する考慮から、第一及び第二の標本の大きさの比を予め指定する場合が考えられる。

第一及び第二の標本の大きさを夫々 k_1n , k_2n としたとき、
 $(k_1 = 1, k_2 = \frac{1}{2})$ の場合及び $(k_1 = \frac{1}{3}, k_2 = 1)$ の場合を例にとつて、消費者並に生産者保護の立場から與えられる通常の條件の下で、必要 n を求めるための数値表の作成法と、その結果の一部を示した。

詳しいことは追つて本講究録に発表する。

15. 住 宅 調 査

内 田 良 男

塩 原 由 郎

都市住居の実態の地域的分布、不良住居とその密集する地区的分布を求め、それを住宅、都市、環境衛生計画等の面における対策を樹立する基礎資料とする目的で住居の質を測定評価しようと試みた。

社会的に客観的に測定評価するのに建物及び設備関係に21項目（最高減点360点）、維持関係に4項目（全220点）、居住関係に5項目（全120点）を設け各項目における評価基準を詳細に具体的に定義し且つ配点した。

(1) 統計的に独立な評価項目を求めて評価法を簡単にする。

(2) 評価対象が変つた時に評価基準を修正する方法